

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8239
担当部課名	経済部	農政	課	農業振興 班
事務事業名	環境保全型農業指針策定事業		事業コード	31520

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	立地特性を生かした産業の振興を目指します	事業開始年度
基本施策名	第5節	都市農業の振興	12年度
施策名	第2施策	特色ある都市農業の推進	

2 実施根拠及び関連法令等

農業生産総合対策事業実施要領(平成12年4月1日付け農林水産事務次官依命通知)

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
自然環境に調和した農業体系確立のため、生産者に栽培方法の指導を進めるとともに、環境にやさしい資材導入を円滑に進めるため、新資材の試験的導入を図る。		農家及び市農協	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
環境保全型農業栽培指針の作成 750000円 関連資材導入支援補助金 875000円		環境保全型農業推進方針、栽培し真に基づき、園芸の生産方式の推進を図る。	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	平成12年度～平成22年度

4 評価指標

指標名			
指標式			
指標設定の意図			

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標			a	b	
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	700	1,625	1,625	700
	人員・時間数	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)
	人件費	842	842	842	842
	その他経費	0	0	0	0
	合計	0	1,542	2,467	1,542
特定財源		350	1,250	1,250	700

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 B ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 =
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	
$\frac{a}{b} \times 100 =$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由 :	対象地区において、農薬の散布回数を減らしたが被害が少なかったとのアンケート結果が出ている。	

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A : 適応している	理由 : 地球環境に配慮した農業の推進。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 : 費用に反して生産物の価格が高くなっていない。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由 : 一定の時期までは行政が進める必要がある。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 : 生産者は薬剤散布回数が減少して、農作業の軽減が図られるが、価格の面で満足していない。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由 : 化学肥料や化学合成農薬を減らすことで、有効と考える。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 地域を広めることで、より大きな効果が得られる。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 生産されている資材が特殊なため。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

社会環境を考えると、これからの農業は、自然と調和した栽培方法を考えるべきである。この環境保全型農業は、化学肥料や化学合成農薬の使用量を減らすため、生産された作物はもとより、作業をする者も、より安全になる。

8 二次評価における変更点

--